

藤原総合文化会館検討専門部会について

I 文化会館3館の集約の方向性について

- 文化会館の集約については、市民委員会及び特別委員会（議会）の意見を踏まえ、新規に整備することとなった。
- 整備にあたっては、新施設の利用促進を図ることに重点を置き、複合化する機能や候補地などの基本条件の協議を行い、下記のとおり合意形成が図られた。

複合機能の候補：子育て支援機能、文化振興機能

建設地の候補： 、（非公開情報）

ホール座席数：800席程度

- 複合機能の具体的な内容については、市民委員会及び特別委員会（議会）での意見を踏まえ、次年度の基本構想の中で整理していく。
- 候補地については、財源や敷地条件を整理するとともに、利用促進等の観点から総合的に判断し候補地を選定していく。



【上記を踏まえた市の考え方】

新文化会館の方向性が整理されたため、藤原総合文化会館の検討を再開したい

II 藤原総合文化会館検討専門部会での確認事項

藤原総合文化会館検討専門部会については、計6回の会議を開催し、以下の内容について合意された。

- 耐震性の観点から、藤原総合文化会館は令和2年4月以降休止すること
- 観光情報機能は駅前に残すことを前提に議論を進めること
- 手法は民業圧迫しないことを条件に公民連携を前提に進めること
 - 公共施設は市民活動の発表の場の確保、フリースペースを前提に今後検討を進める。（美術館等は除外）
 - 商業施設については、飲食施設を中心に物販も含めて検討していく。（物販のみ、宿泊施設は除外）
- 第6回会議においてサウンディングに必要な事項を検討するため「藤原総合文化会館跡地利活用に関する勉強会」を設置することを確認

Ⅲ 藤原総合文化会館跡地利活用に関する勉強会について

- 市内観光関係者や鉄道事業者、市職員からなる勉強会を設置し、計3回の会議を開催し、藤原総合文化会館跡地利活用に関するサウンディングに必要な事項を検討した。
- 勉強会において、観光客に対する鬼怒川温泉駅前のあり方に関するアンケートを実施することとなり、令和3年11月から令和4年1月にかけてホテル・旅館、観光施設等に協力いただきアンケートを実施した。主な結果は下記のとおり。

◇対象者：鬼怒川温泉に訪れた観光客

◇回収数：1015件

◇質問：鬼怒川温泉駅前に足りないと感じた施設は何か。

◇回答 ①飲食施設（38.2%）（食事、喫茶、酒を伴う飲食施設）

②物販施設（22.5%）（コンビニ、お土産、日用品）

③公共施設（14.8%）（美術館・博物館、公園）

④レジャー施設（6.9%）（子どもが遊べる場所、アスレチック、遊園地）

※詳細は別紙資料のとおり

Ⅳ アンケート結果等を踏まえた勉強会における主な意見等について

- ・ 飲食という意見が多い。飲食を中心に複数の店舗があるような施設
- ・ フリースペースがあって、キッチンカーやイベントでの利用が可能な施設
- ・ 収益施設のみでなく核となる公共施設、図書館など通年で営業するものを入れないと民間参入は厳しいのではないか。
- ・ 文化会館跡地に限定せず鬼怒川温泉駅前全体を一体的に考えるべきではないか。
- ・ 東武のバスの駐車場をサウンディングに組み込むことは難しい。市がそこも含めて考えたいということであれば相談にのることはできる。
- ・ 専門部会の意見のとりまとめから2年以上経過している。周りの状況も変化している。2年以上前の意見でこのまま進めてしまっているものなのか疑問が残る。



【上記を踏まえた市の考え方】

専門部会において、課題等を再確認し、共通認識を図る必要がある。

V 専門部会において検討を進める上での課題等の整理

藤原総合文化会館検討専門部会において検討を再開するにあたり、前提条件の共通認識を図る必要があるため、下記の課題について整理したい。

課題1 検討を行うエリアについて

藤原総合文化会館跡地を中心に検討を進めてきたが、駅前全体を含めて検討すべきという意見があったことから、検討を行うエリアについて再確認を行う必要がある。

【市の考え方】

→ 駅前全体との調和を図りつつ、藤原総合文化会館跡地のエリア（図書館、旅館組合を含む）のあり方について検討を進めていきたい。

課題2 専門部会における確認事項について

専門部会において一定の方向性が確認されているが、確認時点から時間が経過してしまっている。

【市の考え方】

→ 専門部会での再確認が必要と捉えているが、観光客へのアンケート結果とも概ね一致していることから、方向性についてはすでに確認した内容を基本として、今後も議論を進めていきたい。

課題3 サウンディング型市場調査の実施方法について

専門部会や勉強会において、跡地に関する一定の方向性が出ている中、サウンディングの実施方法について確認する必要がある。

【市の考え方】

→ 専門部会や勉強会における方向性を前提条件とした民間企業等の参入可能性に絞ったサウンディングを実施したい。



上記の課題について整理し、市と専門部会とで共通認識を図ったうえで、令和5年度から、検討を再開し、専門部会及び議会の意見を伺いながら、令和6年度中の基本計画の策定を目指したい。

【その他個別に検討が必要な事項】

下記の事項については、上記の検討事項と切り離せない課題であることから、市において並行して検討を進めることとし、進捗については本検討部会に随時報告を行う。

○ 観光情報センター、トイレの取扱いについて

観光情報センター及び公衆トイレについては、国庫補助の関係から現時点で取り壊すことが難しい状況にあるものの、減築等により残すのか、取り壊して新たな整備を行うのか等の検討を行う必要がある。

○ 藤原図書館の取扱いについて

藤原図書館については、老朽化が進んでいる状況にある。市としては、現在の規模で建て替えや大規模改修は考えていないことから、利用者の意向も踏まえながら、あり方について検討を行う必要がある。

○ 関係者との調整について

東武鉄道や旅館組合など事業実施にあたり影響のある周辺事業者等との調整を図る必要がある。